286西多賀店（宮城県）
クルー
大友 廣樹さん

おおとも ひろき／アパレル製造・卸売業や営業職、飲食店勤務などを経験。マクドナルドが大好きで、朝・昼・晩と通っていた際にスカウトされ、69歳で入店を決意。週に5日間、オープン作業から朝マックの時間帯をキッチンから支えている。

※左は、角田ヤマザワ店 クルーの佐藤 文彦さん。大友さんのトレーニングを受けに286西多賀店に通っていた。今でも二人は連絡を取りあう友人同士

影のヒーロー

286西多賀店には、影のヒーローがいる。

まだ薄暗い時間から働き始め、あっという間にオープン準備を済ませてしまう。キッチンクルーとして調理を担当しつつ、忙しいときには資材補充をはじめ仲間のサポート。資材を積んだトラックがやってくると、段ボールを運び冷凍庫など所定の場所に補充していく。ピークの慌ただしい時間でもみんながスムーズに使えるように、賞味期限の近いものから手前に並べる。そして、仲間に名前を呼ばれるとすぐにキッチンへフォローに向かうのだ。

そんなクルーの名前は大友さん。爽やかな笑顔と気さくな人柄は、いつもキッチンを明るく照らす。周囲を助けてばかりなのに「ありがとう」を言う回数は人一倍多い。頼もしくも謙虚な大友さんが、286西多賀店のみんなは大好きだ。

より多くの笑顔を

大友さんは、286西多賀店で働く仲間以外にもポジティブな影響を与えている。その一人が、彼の初めてのトレーニーであり286西多賀店まで研修を受けに通っていた、角田ヤマザワ店の佐藤さんだ。「誰かに教える機会に備えて、仕事の手順やコツをまとめていたんです」と語る大友さん。手作りの“トレーニングメモ”を渡したり、その日の振り返りやアドバイスをしたりと、寄り添い、一生懸命トレーニングに取り組んだことで、佐藤さんはクルーとしてどんどん成長した。大友さんの教えは今、佐藤さんを通じて角田ヤマザワ店にも広がっている。

大友さんは、店舗の中で働く人だけでなく、資材を搬入する業者の皆さんへも感謝や協働を大切にしている。サプライヤーさんもマクドナルドを支えてくださる大切な仲間。資材を搬入いただいた際きちんと感謝を伝えたり、回収いただくカートやトレイについて、作業が楽になる整理方法を直接伺い徹底したり。誰もが気持ちよく働けるように努めている。お互いコミュニケーションも増え、より楽しく仕事ができるようになり、さらには搬入業者の皆さんの作業時間の短縮にもつながった。自分ができる最大限をいつも考える大友さん。彼の仲間やお客様を想う行動はやがて286西多賀店の文化の一つになり、より多くの方に笑顔を届けている。

人生は何のために

どうしてそんなにも頑張れるのか。尋ねると、大友さんは少しだけ真面目な顔になった。実は彼には癌の闘病経験がある。命の危機に直面し、自身の歩みやこれからを考えるなかで気づいたのは「人生は誰かに笑顔を届けるためにある」ということだった。

いくつもの職場を経験し、数えきれないくらいたくさんの人に出会ってきた。失敗も苦しいことも、乗り越えられたのは人のやさしさに救われたから。マクドナルドで得た経験はきっと人生の糧になるはず。だからこそ、自分が若い世代の挑戦の機会を支えたい。「それに、重い段ボールを運ぶのだって、良い筋トレになるんですよ!」そう笑いながら、今日もみんなのために取り組む大友さん。彼の人生はたくさんの笑顔に彩られている。

© McDonald's